

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
1	川崎市立 川崎 高等学校全日制	岩木 正志

学 校 教 育 目 標	学 校 経 営 の 目 標	今 年 度 の 重 点 目 標
「こころ豊かな人になろう」 ・自分の良さを伸ばし、将来の夢を見つめて、自分探しに取り組もう ・自ら知識を求め、追究する過程を大切に、新たな課題に取り組もう ・他を認め、思いやる心をつちかひ、人類共通の課題に取り組もう	・学習指導・生活指導・進路指導の一体化による高い志の実現を促す ・6年間の特色ある教育活動の推進 ・安全・快適な教育環境の整備 ・適正かつ効率的な学校事務の遂行 ・教職員の資質・能力向上と学校組織の活性化	・自らの高い志を追究し、その実現のためにひたむきな努力を継続できる生徒を育成し、基礎・基本の定着・ともに確かな学力・豊かな心、健やかな体を育む ・それぞれの学科の特徴を生かしながら、生徒一人ひとりの良さを伸ばし、可能性を引き出すとともに自己存在感を育める教育活動を展開する。 ・新型コロナウイルス感染症防止のための基本的学習習慣の確立と教育環境衛生の保全に努めるとともに、コロナ禍における生徒の学びの保障に努める。

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	学習指導	○学習習慣の確立と基礎・基本の徹底、生徒の学習ニーズに応じた発展的な学習のサポート等、主体的な学びを促す学習指導を展開する。 ・生徒の良さを伸ばし、潜在的な能力・可能性を積極的に引き出すためにICTを活用した授業改善に取り組む。 ・学び方や学習方法の指導など学習ガイダンスを継続的にを行い、家庭での学習習慣の確立させ、自学自習や生徒相互の学び合いを通して、生徒の進路目標到達と自己実現を支援する。 ・基礎・基本の徹底から専門的知識・技能の習得や各種資格取得の指導をもとに、将来、地域社会のコミュニティを担う人間となるべく主体的・対話的な深い学びを実践する。	・濃厚接触等で出席停止になった生徒にもZoomで授業配信を行ったりし、学びの継続を図った。 ・進路指導部及び校内委員会の「学力向上プロジェクト委員会」が連携し、生徒のニーズにあった教育課程に改訂し、生徒の進路希望の実現を支えた。 ・生活科学科、福祉科は、基礎的、基本的な学力の育成と共に、学科の特色を生かし資格や検定の取得を目指すことで、知識・技能をより高めることができた。 ・昨年組織した授業力向上に関するワーキンググループを教科に反し、教科内の活動を校内で共有することによって、学校全体の授業力の向上を図った。 ・火曜日の8校時に「学習会」を学年ごとに設置し、生徒の主体的な学習を促した。 ・模擬試験ごとに結果分析を行い、生徒・保護者に丁寧に説明するなど、学習指導と進路指導の連携体制を推進した。	・中高一貫教育の学習成果が発揮できるよう合同教科会を行い授業内容の継続性を進め、模擬試験の振り返りをしっかりと行い、生徒の進路実現に向けた取組を推進する。 ・生徒・保護者を対象とした説明会の内容や模試の結果分析の提示方法など進路ガイダンスの充実をさらに進める。 ・次年度も模擬試験の結果分析など教員を対象とした検討会を実施し、個々の生徒の進路実現を目指していく。 ・専門学科も、社会的自立に向けて、専門家による体験授業・施設実習の充実など、地域人材の活用、資格取得に向けた実践的な授業の改善に努めていく。 ・引き続き、教職員の個々の授業の取組を学校全体で共有できるように自由に参観できる雰囲気を作り、授業力の向上を図っていく。 ・オンライン会議ソフトZoom、学習支援ソフトClassi及び「駅台サテネット21」、「GIGA」などの多様なICTを整理し、使い分けを行い学習に利用していく。
2	生徒指導	○特別活動の活性化、学校行事を通して、学校生活の充実・向上を生徒自ら図っていく指導を展開する。 ・人権尊重の精神を培うとともに、人間的な心の触れ合いや感動体験活動等を通じ、学ぶ者同士の連帯意識や所属意識を醸成する。 ・魅力ある体育・文化活動を通して、心身の調和のとれたたくましさ豊かな感性を育む。また、部活動を通して生徒の個性・特性を伸ばすとともに、切磋琢磨しあふ人間関係を築く中で社会性、協調性を育んでいく。 ○基本的な生活習慣、心身の健康の保持による生活規律を確立する。 ・日常的な指導や学校行事・ソングホームルーム・部活動等を通じて、生徒の基本的な生活習慣・学習習慣を確立できるようにするとともに、幅広い社会性や交友の精神と豊かな人間性を養うように継続的に指導していく。 ・心身の健康管理や食育等を通して、学力の基礎となる健全な生活習慣の確立を図る。	・体育祭は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた中で、中高合同で開催することができた。事前準備等については中高合同のブロック編成で行い、附属中学校との連帯感を高めることができた。 ・部活動でも、感染症拡大防止を踏まえ、個性の尊重、社会性の育成などを育むように活動した。次年度以降も家庭学習時間の確保、社会教育、家庭教育の機会や教員の余暇の確保などとの兼ね合いを図りながら、市の方針に沿った形で実施していく。 ・さまざまなニーズを持った生徒、生徒の心身のケアに対応するため、「支援検討委員会」や養護教諭、スクールカウンセラーの連携を密にとり、実効性のある支援に努め、教育相談を行い、生徒理解に努めた。	・市の方針に則しながら、授業時間を確保するとともに、社会状況に応じて生徒が主体的・効率的に取り組む活動を活性化していく。 ・ICTによる活動をさらに推進し、オンラインによる地域との連携を推進するなど、生徒の学校内外での活動の機会をさらに増やしていく。 ・教育相談の機会や学校ホームページを利用し、家庭における生徒の健康管理や基本的な生活習慣の確立を図る。 ・日頃より感染症拡大不安など、生徒の心身の変化に留意するとともに、「生徒情報交換会」や「支援委員会」などの校内組織を効果的に運用し、生徒、学級の状態を客観的に看取り、青年期の不安や特性に応じた関わり、適切な支援をすることによって、充実した学校生活がおくれる基盤を作る。
3	進路指導	○計画的・組織的な進路指導を推進し、生徒一人ひとりの実態とニーズに応じた指導を展開する。 ・学科の特徴や生徒の実態に応じた進路ガイダンス、進路講演会、模擬試験、職業体験等、進路啓発行事を最適な時期で計画・実施し、進路実現に向けた一層の指導の実施を図る。 ・進路指導部、学年との連携を密にし、「進路の手引き」の充実、活用を図るとなど、生徒が主体的に進路選択できるように3年間を通じた計画的・効果的な進路指導の確立を図る。 ・教育活動全体を通じて自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、高い志や夢を育むキャリア教育を推進する。	・新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、進路ガイダンス・進路講演会・職業体験など、外部講師や保護者を招いた進路啓発行事を実施した。 ・昨年同様に進路啓発行事で、遠隔会議ソフトなどを積極的に活用するなど、新型コロナウイルス禍における進路指導体制の見直しを図った。 ・二年目となる大学共通テストが実施されたため、模擬試験の結果分析を丁寧にを行い、客観的に生徒・保護者の信頼が得られるような進路指導を目指した。 ・教育プランに基づき、将来の社会的自立に必要な力を育成するため、社会人材や卒業生を生かした講演会や体験や実習を積極的にかつキャリア教育の推進を図った。	・校務分掌、校内委員会の連携をより一層はかり、生徒の進路希望の実現を目指す。 ・感染症対策を進めながら、生徒の主体的な進路選択を目指し、効率的、効果的な進路ガイダンス・進路講演会・キャンパス訪問・職業体験等の進路啓発行事の実施を目指す。 ・保護者、生徒への進路情報の配信、模試等のデータの蓄積と活用等、ICTをはじめ本校の持つ教育環境を生かし効果的、効率的な進路指導を進めていく。 ・教育プランに基づき、生徒の将来の社会的な自立に向けたキャリア教育の推進に努める。
4	6年間の特色ある教育活動の推進	○川崎市教育委員会研究推進校研究課題「6年間の体験的・探究的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を身につけさせるための研究」を推進する。 ・総合探究（総合的な学習の時間）の組織的・計画的な指導と外部機関との連携による探究的な活動の推進ならびに学習発表会に向けた全校的な取組を進める。 ・外部講師による講演会や体験会を実施し、生徒により広い視野に立つて物事を見ていく力を育てる。	・「市立高等学校教育改革推進計画第2次計画」の「中高一貫教育の充実」を目指し、中学、高校の教員による6年間の系統的な教科指導の在り方や校務運営について、検討や研修の機会を設け、研修や意見交換を行い、共通理解を深めた。 ・今年度もスタンフォード大学との連携を実施し、生徒の多文化への理解や、グローバルなものの見方などを育成した。 ・今年度も横浜国立大学との連携は、予定通りの進捗できなかったが、次年度も都市科学部と連携し、高大連携を進めていきたい。 ・今年度も市役所の業務改善イベント「チャレンジかわさきカイゼン発表会」に参加し、市長へ及び市役所の職員に向けて、代表生徒の発表を行うことができた貴重な体験となった。 ・昨年度より総合的な探究の時間の発表会を予選発表、本発表と2部構成にし、全科が参加する「弥生祭」を開催し、生徒の学習への意欲を高めた。	・中学からの6年間の充実した学習を推進するためにも、中高の教科指導や校務運営などの考え方について、合同の会議を定期的に進め、共通理解を図っていく。 ・今後も様々な機会に、地域や外部の専門機関、大学、企業と連携し、多くの体験をすることや講演会に参加することで、将来の社会的自立を目指す。 ・探究学習については、スタンフォード大学や横浜国立大学の連携をさらに深め、生徒の国際理解や主体的な学習の機会を増やすとともに、市内への情報発信にさらに努めている。
5	教育環境整備	○本校の特色・魅力を具現化する教育課程を編成・実施する。 ・基礎的、基本的な知識・技能の定着を図るため、教育内容や指導方法等の充実・改善等の取組を継続していく。 ○各教室や体育施設の円滑な運用に向けて、組織的・計画的な取組を進める。 ・附属中学校・全日制の学校行事、生徒会行事等の実効的な取組を工夫・検討し、活動内容の充実を図る。 ○清浄活動や校内美化活動により、自ら学習環境を整える態度、社会性や公共心を育成する。	・施設管理室との連携を常時図り、校舎内の施設の維持・美化に努め、不備等においては迅速な処理を行った。 ・日常の授業、行事、部活動などにおける各教室や体育施設の円滑な運用に向けて、総務部、学務部を中心に、調査方法を工夫し、組織的・計画的な取組を進めた。 ・高校全日制・定時制・附属中学校・南部地域療育センター合同の全館防災訓練を今年度も実施できなかったが、災害時における生徒の一人一人の防災意識を高める学習や訓練を行った。非常時に備えて校内の備品等の整備を行った。	・施設管理室と連絡・報告を密にし、生徒の安全を最優先した施設点検及び管理に努めていく。 ・高校全日制、定時制、附属中学校が、授業、行事、部活動で、限られた学校施設を効率的に使えるよう、各校務分掌や部顧問が校種を越えて連携を深め、連絡調整に努める。 ・生徒の健康上の安全を優先し、施設内の消毒の徹底など、前年度の取組を生かしている。
6	学校事務	○公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行う。 ・学校全体を見据え、管理職、教職員等との連携と情報の共有化を図りながら、学校財務の効率的な運用を図る。 ○校舎及び体育施設における備品等の管理を行う。 ○教職員の福利厚生等に関する事務の適正処理を行う。	・各分掌や教科代表による予算委員会を組織して計画的な予算編成に取組み、管理職と予算担当者で実務的な取りまとめを行った。 ・夏休みを中心に、全職員で校舎内及び体育館の備品の管理状況の調査を実施した。 ・学校事務については適正な事務処理が執行された。	・公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行うため、学校全体を見据え、管理職、教職員等との連携と情報の共有化を図り、共通理解のもと、学校財務の効率的な運用を図る。 ・校舎及び体育施設における備品等の適正管理を行う。 ・教職員の福利厚生等に関する事務の適正処理を行う。 ・学校徴収金の適切な管理運用のための校内の相互チェックなど、管理体制を引き続き強化していく。
7	学校組織	○各教科等の公開授業や研修会などを通して、指導力を高め、授業改善を継続的に進めていく。 ・各教科等において、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために有効な手立てとなる、言語活動の充実を図る取組を進める。 ・各教科・科目の特性に応じた適切な学習形態のあり方を研究、実践する。 ・校務分掌上の業務分担の確立や伝達・継承の円滑化を図る取組を進める。 ○校内コミュニケーションを通した相互協力や連携に基づく協働体制の確立を図る。 ・全職員が一丸協力して計画的で継続的な教育活動を展開し、円滑な校務運営にあたるとともに、各学年、各分掌との連携・協調を通じて、教育効果の向上と教育条件の整備に努める。 ○学校情報を積極的に発信する開かれた学校づくりを推進し、学校全体の教育力を高める。 ・生徒・保護者、地域から信頼される学校となるよう、教職員の資質向上を図り、生徒が生き生きと学ぶ教育を推進する。 ・教育公務員としてその職責の重さを自覚し、言動が生徒の範となるように、不断の自己研鑽及び研修に努める。	・新型コロナウイルス感染症拡大下での継続的な教育活動を目指し、ICT活用に関する校内組織委員会を中心に、オンライン授業の実施するなど、生徒の学びの継続を図るための組織運営に努めた。 ・定期的に開催する校務運営会議を通じ、各学年、各分掌、専門学科等の取組を報告・連絡・相談することで、共通理解を図り、円滑な学校運営に努めた。 ・校務支援ソフトClassiの連絡機能を活用し、校務に関する情報伝達を効率化することで、職員間の情報共有を容易に行う体制をつくった。 ・学年・保健室発行の便り、PTA・学校による発行情報などを、Classiやホームページ、マモルモルを活用することで、生徒、保護者に必要とされる情報の発信を積極的に行うことができた。 ・校内施設の不具合等を整理し、適切な整備補修が行われるよう、教育委員会の関係部署と緊密に連携をし、迅速な対応に努めた。 ・教育公務員として日常からの適切な言動を不断に再確認しながら、外部の事例等に基づき必要な研修を行った。	・「市立高等学校教育改革推進計画第2次計画」の推進に向け、専門学科の生徒及び中高一貫教育の生徒の学習ニーズと進路希望の的確にとらえ各校務分掌が課題改善に向けた、迅速かつ計画的、継続的な学校改革を推進する。 ・教員のICT活用をさらに推進し、校務全体の効率的な業務運営を行うことにより、働き方改革の推進を目指す。 ・地域、保護者から信頼される学校をめざし、ICTを活用して授業公開を行うなど、情報発信に努め、開かれた学校づくりを一層推進する。

学 校 関 係 者 の 評 価	今年度の学校運営のまとめ ・ 次年度へ向けて
・コロナ対応の上から、濃厚接触者に対して授業のオンラインを実施していただけたのがよかった。 ・進路実現のために、生徒と保護者対応の進路説明会を行ってもらって助かった。 ・コロナのため学校に出向く機会がまだ少なく、特に保護者が体育祭を学校で見えなかったのは残念であった。 ・神無祭(文化祭)は、保護者の参加ができ子どもの活動がみれてとてもよかった。 ・部活動など中高の交流をもう少し増やしてほしい。	・新型コロナウイルスの感染拡大防止対策から、今年度も教科教室型の学校生活をなくし、施設使用後の消毒を徹底するなど、職員・生徒の安全を優先した取組に努めた。同時に、生徒の心のケアや学力の保障のため、オンラインを活用し、ホームルームや授業を行った。次年度も、生徒の安全や心のケア、学力の保障を臨機応変に継続して推進していく。 ・校内におけるICTの活用をさらに進め、平常時の学校生活の確保や緊急時にも対応できる強い学校体制をめざすとともに、職員の業務や生徒の学習の効率化を図る。 ・次年度も普通科の「総合的な探究の時間」や専門学科の「課題研究」等を合同で行う発表会である「弥生祭」を利用し、生徒の主体性や協働性、表現力を伸ばす学習活動を進めていく。 ・学校教育目標の達成、具現化を図り、生徒が学校生活を送るうえで、「自己肯定感」を持ち、各自の進路実現に向けて、教育活動をより一層推進していく。